

6月11日（土）、12日（日）に国立オリンピック記念青少年総合センターにて第31回日本登山医学会が開催されます。会長として、メインテーマを「実践的な登山医学をめざして」とし、わかりやすく、実際に役立つ内容であることを意図しました。

1日目には緊急ワークショップ、「大震災でみたこと・できること」を急遽企画しました。実際に体験したこと、どのようなことができるかなどについて、現地の声に耳を傾けたいと思います。

特別講演ではセロトニンの研究でご高名な有田秀穂氏（東邦大）に、登山は脳を活性化する、つまり登山で精神的にも元気になるという話をしていただきます。

シンポジウム1は「登山のためのトレーニングー礎体力をどのように作るかー」というテーマで、石井直方氏（東京大）、山地啓司氏（立正大）、山本正嘉氏（鹿屋体育大）に集まっていただきます。石井氏は研究者ながらボディビルダーで、瘦筋力という痩せる筋トレ術についての著書があり、筋トレの専門家です。山地氏には持久力の付け方について、山本氏には中高年登山者の体力不足と今後の課題について講演していただきます。

ランチョンセミナーでは飯野靖彦氏（日本医大）に登山と水分・塩分摂取について最近の話題を提供していただきます。吸収の早い経口点滴剤のような飲み物も開発され、今後、トレイルランなどにも利用できると思います。

さらに、日本でも昨年、認定山岳医制度が発足し、今度の学会で初めてのライセンス授与が行われますが、1年半前に英国で認定山岳医ライセンスを取得された大城和恵氏（心臓血管センター北海道大野病院）に、英国でのご経験を報告していただきます。

睡眠時無呼吸症候群について子島潤氏（鶴見大内科）に教育講演をしていただきます。睡眠時無呼吸症候群の方は低地でも睡眠時に低酸素症になりますが、酸素の薄い高所では一層、低酸素症が顕著になりますので、注意が必要です。

会長講演として、私が行ってきた富士山山頂での、睡眠時無呼吸症候群の治療に使われる口腔内装置の効果などを含めてお話ししたいと思います。

その他に、一般演題30題が口演またはポスターで発表されます。

1日目の夕方には懇親会が開かれます。大変楽しい会ですので、歓談をお楽しみください。山仲間の輪を広げる機会にして頂けましたら幸いです。

2日目には、シンポジウムとして、セブンサミッター医療関係者の篠崎純一医師、河野千鶴子看護師にお話をしていただきます。篠崎氏は酸素を使われた経験に基づいて興味深いエピソードを中心にお話を、河野氏は56歳からの8年間で4つの8,000m峰を登頂した経験に基づいたお話を、それぞれしてくださる予定です。

教育講演として船木上総氏（苫小牧東病院）に、トムラウシ山遭難現場を検証された目で、低体温症についてあらためて問題提起と整理をしていただきたいと思います。

最後に、ランチョンセミナーで救急蘇生法について、小菅宇之氏（横浜市大救命救急セ

ンター) に講演していただきます。救急蘇生法は最近ガイドラインが激変し、タイムリーな企画と言われております。なお、午後には市民公開実技講習会講座「救急蘇生法と AED」がありますので、引き続き参加されると、一層、有益なご参加になることと思います。

その他、ロビーでは展示などもありますので、楽しんでいただけるでしょう。是非ご参加ください。